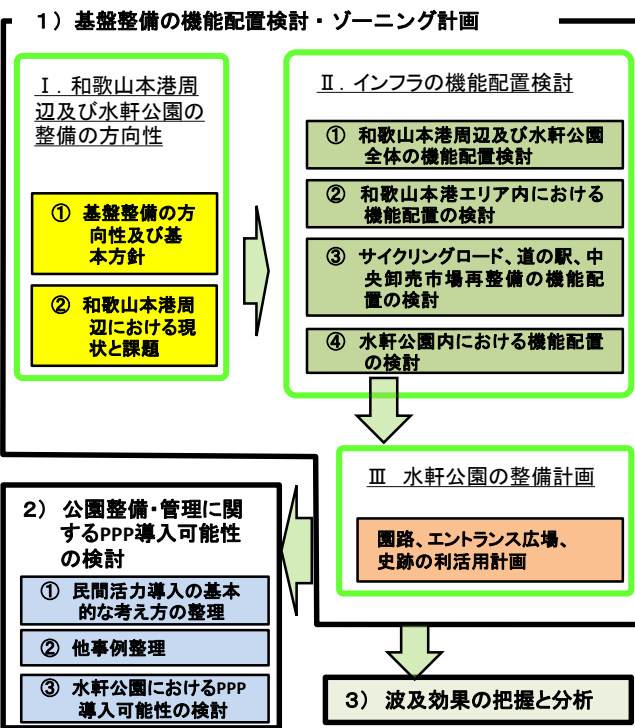


和歌山下津港(本港地区)における観光振興及び地域活性化のための基盤整備検討調査

(調査の背景・目的)

○和歌山市では、日本船社のクルーズ船の寄港はあるものの、平成25年以降、外国船社のクルーズ船は寄港していない状況にある。これより、大型クルーズ船の寄港による効果の把握や分析調査及び効果的な受入れの調査をし、事業効果を含め検討を行う。また、クルーズ船が寄港する港に面した中央卸売市場の再整備に併せて新たに水軒公園を整備することにより和歌山本港周辺の一体的な基盤整備の基本計画、水軒公園整備におけるPPPの検討を行うことを目的とする。

(調査の手順)



調査成果

①基盤整備の機能配置検討・ゾーニング計画

I. 和歌山本港周辺及び水軒公園の整備の方向性

- クルーズを契機としたみなと周辺のまちづくりを強化するにあたり、埠頭、中央卸売市場の再整備、水軒公園整備と一体的に基盤整備を行い機能強化の検討を図る。
- 和歌山本港は関西の玄関口として、「関西を代表する国際クルーズゲートウェイ」を目指すとともに、魅力ある観光コンテンツを磨き上げ、積極的な誘致と官民連携で受入れ体制の強化を図る。
- 地域特有の景観・歴史・港湾空間を活かしながら、市民や観光客に親しまれる「みなと・公園づくり」を進める。

II. インフラの機能配置検討

①和歌山本港エリアにおける機能配置の検討

1. 快適な待合い、入出国手続き環境、移動動線の確保
2. 交流拠点形成となるための交通結節機能の強化
3. 外国人観光客の周辺地域への積極的な誘導
4. クルーズ及びサイクリングロードと一体となったみなと周辺のまちづくり

②サイクリングロード、道の駅、中央卸売市場再整備の機能配置の検討

1. 中央卸売市場再整備、道の駅整備等と一体となった憩い・にぎわい空間の整備
2. 多機能の連携強化によるサイクル拠点としての整備を検討

③水軒公園の機能配置の検討

地域住民の憩いの場や良好な住環境の創出、文化財（水軒堤防）を活用した魅力ある施設づくり、クルーズやサイクリングロードと連携したネットワークの形成を目指す。



III. 水軒公園の整備計画

- 【園路】広域的な歩行系ネットワークの形成を考慮し、計画地全線にわたる幹線園路を整備し、ベンチを配置などで遊歩道空間を創出
- 【エントランス広場】利用者のたまりの空間となる小広場、休憩施設、駐輪スペースを有するエントランス広場の整備
- 【史跡の利活用】水軒堤防の保全を前提とした現況地形を活かした公園整備や解説サインの整備、復元展示（既存）を活かした周辺整備

②公園整備・管理に関するPPP導入可能性検討

公園整備段階でのPFI方式の導入は困難であるが、公園の管理については、地域住民による都市公園美化協力会の組織づくりを通じて、地域住民主体の公園美化活動及び水軒公園の愛護心の醸成を図る。

③波及効果の把握と分析

クルーズの寄港増加による観光消費の増加等の経済波及効果、水軒公園の整備及び港周辺の快適な歩行空間創出により、レクリエーション利用や上質な沿道景観の創出、地域利用を促進する歩行系ネットワーク形成、さらにサイクリングロード利用者の利便性向上及び広域的な利用促進が期待される。

基盤整備の見込み・方向性

大型クルーズ船受け入れを目指した防舷材及び係船柱等の和歌山県によるハード整備に合わせ、クルーズ船誘致活動と受け入れ体制の整備を平成28年度以降に図る予定である。水軒公園は史跡の国指定文化財登録を進め、平成31年度までに社会資本整備総合交付金の都市公園・緑地等事業で事業化を目指す。

今後の課題

1. 継続的なポートセールスによる寄港実績の増加
2. 県及び関連市町と協働によるクルーズ受入協議会の運営及び官民連携による受入体制整備
3. 中央卸売市場周辺再整備（道の駅、地域振興施設等）と水軒公園が連携した一体的なにぎわい空間づくりを進める。

和歌山下津港(本港地区)における観光振興及び地域活性化のための基盤整備検討調査			
調査主体	和歌山市		
対象地域	和歌山県和歌山市	対象となる基盤整備分野	港湾、都市公園

1. 調査の背景と目的

和歌山市では、日本船社のクルーズ船の寄港はあるものの、平成25年以降、外国船社のクルーズ船は寄港していない状況にあり、これらのクルーズ船を誘致することは、和歌山市の観光振興及び地域活性化への効果が高いと想定される。また、和歌山下津港周辺には国の名勝に指定されている養翠園と隣接した水軒公園を有するほか、和歌山県サイクリングロード整備計画の対象路線が設定されている。さらに、港に面して中央卸売市場が立地しており、その再整備が予定されている。

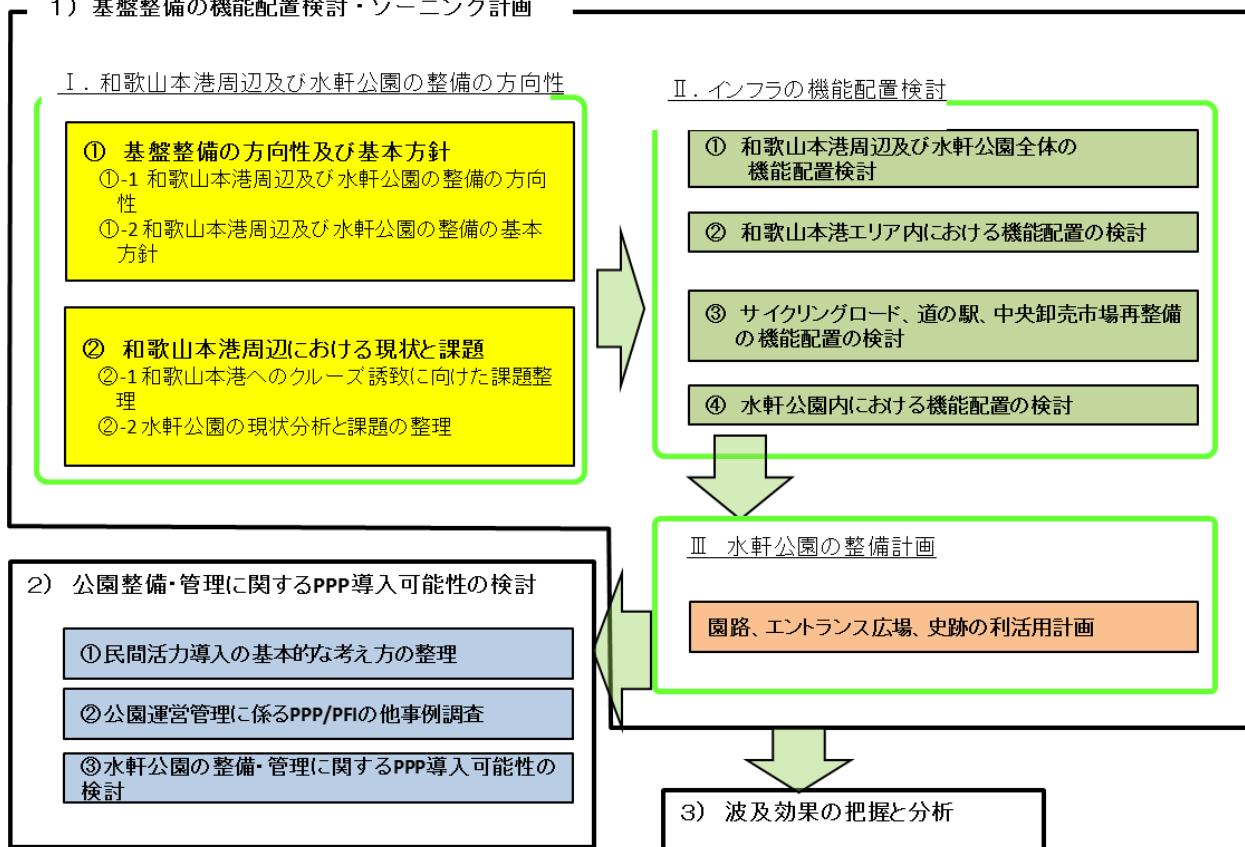
本調査では、クルーズ船誘致の効果把握と分析及び効果的な受入れ環境の調査をし、今後の方向性を示すクルーズビジョンを策定するほか、クルーズ船誘致を契機に和歌山本港周辺の賑わいあるまちづくりに向け、中央卸売市場の再整備やサイクリングロード整備、水軒公園の整備基本計画と和歌山本港周辺の一体的な基盤整備を行うことを目的とする。

2. 調査内容

(1) 調査の概要と手順

以下の項目について検討を行い、クルーズ船寄港に関するワーキング、サイクリングロードワーキング、水軒公園整備に関するワーキングでの議論を踏まえ、和歌山本港西浜地区における和歌山本港周辺の一体的な基盤整備の基本計画及び概略設計を行った。

1) 基盤整備の機能配置検討・ゾーニング計画



(2) 調査結果

1) 基盤整備の機能配置検討・ゾーニング計画

I. 和歌山本港周辺及び水軒公園の整備の方向性

① 基盤整備の方向性及び基本方針

①-1 和歌山本港周辺及び水軒公園の整備の方向性

- クルーズを契機としたみなと周辺のまちづくりを強化するにあたり、埠頭、中央卸売市場の再整備、水軒公園整備と一体的に基盤整備を行い機能強化の検討を図る。
- 和歌山本港は関西の玄関口として、「関西を代表する国際クルーズゲートウェイ」を目指すとともに、魅力ある観光コンテンツを磨き上げ、積極的な誘致と官民連携で受入れ体制の強化を図る。
- 地域特有の景観・歴史・港湾空間を活かしながら、市民や観光客に親しまれる「みなと・公園づくり」を進める。

和歌山本港周辺及び水軒公園の地域特性

景観軸	歴史軸	空間軸
<p>～和歌の浦と連なる西浜の景～</p> <ul style="list-style-type: none">●名勝和歌の浦との連続性●養翠園の借景「高津子山」●「高津子山」等を視点場とした松林による水軒浜を偲ぶ俯瞰景観	<p>～紀州徳川家ゆかりの地～</p> <ul style="list-style-type: none">●徳川藩主の保養地●汐入様式の名園「養翠園」●江戸時代の土木遺産「水軒堤防」●防風潮林として西浜一帯の開発を見守ってきた松林	<p>～港湾オープンスペース～</p> <ul style="list-style-type: none">●港湾拠点としてモノ・ヒトが行き交う「にぎわい創生エリア」の形成(フェリーターミナル、道の駅等)●オープンスペースにおける防災拠点としての役割

和歌山本港周辺及び水軒公園の整備の方向性

当該地域は、景観軸、歴史軸、空間軸が交わるエリアに位置しており、周辺エリア及び和歌山市の資源・特性の活用や地域活動等を重視しながら、観光機能を充実するとともに、災害などの非常時・緊急時には計画地周辺が防災空間として機能するよう、安全で安心なまちを提供するための基盤強化を行うものとする。

【計画テーマ】

地域のシンボルとして地域住民に持続的に愛されるみなと・公園づくり

①-2 和歌山本港周辺及び水軒公園の整備の基本方針

【クルーズ振興の基本方針】

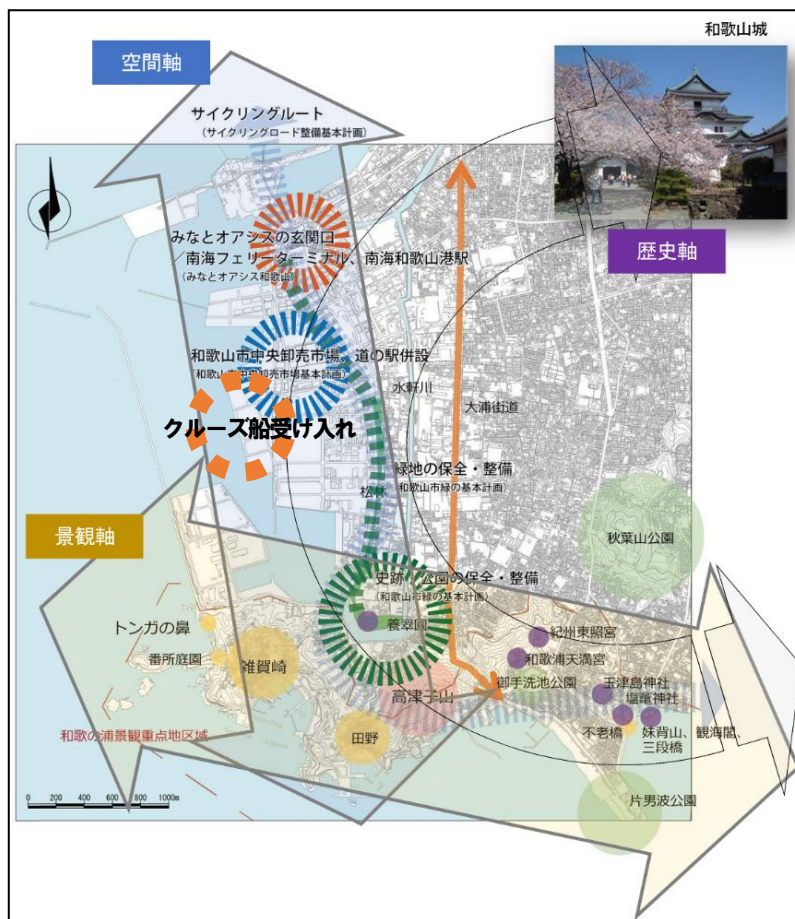
- ①受入れ環境の課題への対応
 - 安全・円滑な受入れ環境の向上
- ②ポートセールスの課題への対応
 - 和歌山の優位性を活かしたポートセールスの強化
- ③推進体制の課題への対応
 - 官民連携による受入れ気運の醸成

【サイクリングロードの整備基本方針】

- ①サイクリングルートにおける自転車拠点の整備
 - サイクリストの中継拠点となる施設・機能の整備
 - 集客力を高める多機能のサイクル拠点の整備
- ②クルーズ船の誘致と自転車利用の可能性の検討
 - クルーズ船寄港時の臨時レンタサイクルの設置の可能性検討等

【水軒公園の整備基本方針】

- ①地域資源の保全と活用
 - 水軒の原風景である白砂青松の保全及び復元
 - 水軒公園の有する豊かな自然環境の保全
 - 水軒堤防の保全と次代への継承
- ②地域住民の利活用
 - 地域住民の憩いとコミュニティ空間の創出
 - 既存施設の利活用
 - 地域住民の健康増進に寄与する施設づくり
- ③安全・安心の確保
 - 良好な住環境の保全
 - 防災に配慮した公園づくり
 - ユニバーサルデザインに配慮した施設づくり
 - 防犯に配慮した施設づくり
- ④周辺施設や関連計画との連携
 - 利活用面における機能的な連携
 - 回遊性のある歩行系ネットワークの創出



和歌山本港周辺及び水軒公園の整備の基本方針

② 和歌山本港周辺における現状と課題

②-1 和歌山本港へのクルーズ誘致に向けた課題整理

安全・円滑な受入れ体制の整備及び周辺エリアの賑わい創出が必要

- ・受入れ施設に対する様々なハード面やソフト面の対応と観光面や集客面における周辺地域との連携が必要である。

●ハード面

- ・シャトルバスやタクシーの駐停車スペース及び動線確保が必要である。
- ・発着を目指す際にはターミナル機能（CIQ、待合スペース等）が必要である。
- ・クルーズ誘致と連携して、水軒公園の水軒堤防を活かした歴史的な史跡公園の検討。

●ソフト面

- ・クルーズ船の船型や運航形態等に応じた環境整備、役割分担の検討が必要である。
- ・観光ツアーに行かない旅客やクルーが楽しめる港周辺環境及び機能の充実。

②-2 水軒公園の現状分析

a. 水軒公園の来歴

昭和 30 年代まで水軒公園（水軒の浜）は海岸線沿いに位置し域の特徴的な風景で、海水浴場として利用される等、市民の憩い日本の高度経済成長に伴い、昭和 39 年には工業団地として海岸が埋め立てられることとなり、美しい海岸線の風景は姿を消すこととなった。

昭和 45 年には和歌山港線が水軒駅まで延長されることと



移築保存されている石提

なり、水軒公園内の樹木を切り開いて線路が整備されたが、平成14年5月に廃止され、線路跡は現在「水軒の浜に松を植える会」によって、地域の学生と協力したマツの植樹活動や清掃活動が行われている。

また、水軒公園内には、和歌山県指定文化財（史跡）に指定されている、南北約1.0kmに及ぶ江戸時代の堤防跡が砂に埋まっている状況となっている。

b. 現地状況

堤体状の敷地形状に現存植生であるクロマツが群生する基本構成となっている。また、計画地南側には、文政元年より同八年に亘り、紀州徳川家第十代藩主徳川治宝が西浜御殿からの清遊地の場として水軒御用地内に造営した大名庭園「養翠園」があり、年間15,000～20,000人の入園者が訪れる状況となっている。



クロマツ林と散策路



大名庭園「養翠園」

②-3 水軒公園整備に向けた課題の整理

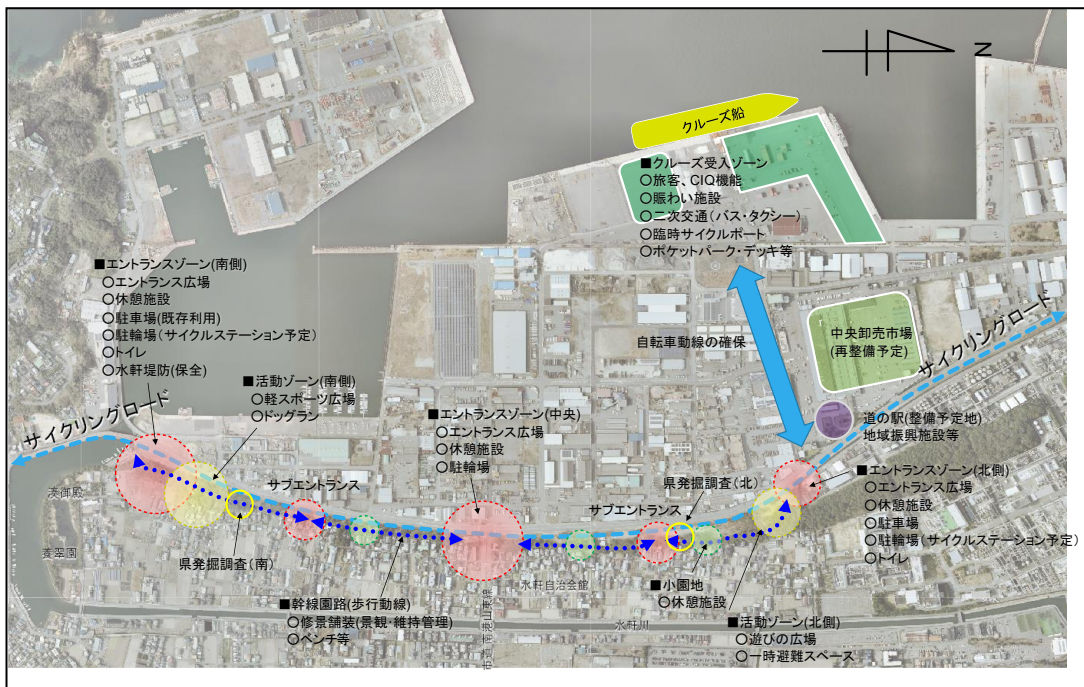
計画地は、堤体状の敷地形状に現存植生であるクロマツが群生し、クロマツ林の中には散策路が設けられており、ウォーキングや犬の散歩に利用されている。

クロマツを主体とした既存植生は保全・復元し、防風・防砂機能の維持・向上させる。また、全国に誇れる地域資産である『水軒堤防』は、保全・利活用するため、その方法について文化財担当課との調整が必要となる。

また、園路については、公園の利便性や安全性に配慮した形状や幅員を確保し、ドッグランなど既存施設についても安全性の向上と機能維持が求められる。

II. インフラの機能配置検討

①和歌山本港周辺及び水軒公園の機能配置全体図



和歌山本港周辺及び水軒公園のゾーニング図

②和歌山本港エリアにおける機能配置の検討

安全・円滑なクルーズ受入れ環境の向上を図るとともに、埠頭、中央卸売市場及び道の駅整備、水軒公園整備を一体的に推進することにより、「港のにぎわい・ホスピタリティ」機能の強化を図る。

a. 快適な待合い、入出国手続き環境、移動動線の確保

- ・ 旅客待合い、C I Q等の機能整備・スペース拡大。
- ・ 利用者数に対応したバス、タクシーの駐車場の確保。
- ・ 港周辺の快適な旅客動線の形成と、背後圏。

b. 交流拠点形成となるための交通結節機能の強化

- ・ 市内または最寄駅までのバス等のシャトル運行、団体、個人旅行等の旅客ニーズに対応したバス、タクシー 駐車場の確保。

c. 外国人観光客の周辺地域への積極的な誘導

- ・ 港付近及び市街地、商店街、量販店等における外国語（多言語対応）の案内表記
- ・ 市内の商店街、百貨店、スーパー等の商品・土産・特産品等の情報の発信 等

d. クルーズ及びサイクリングロードと一体となったみなと周辺のまちづくり

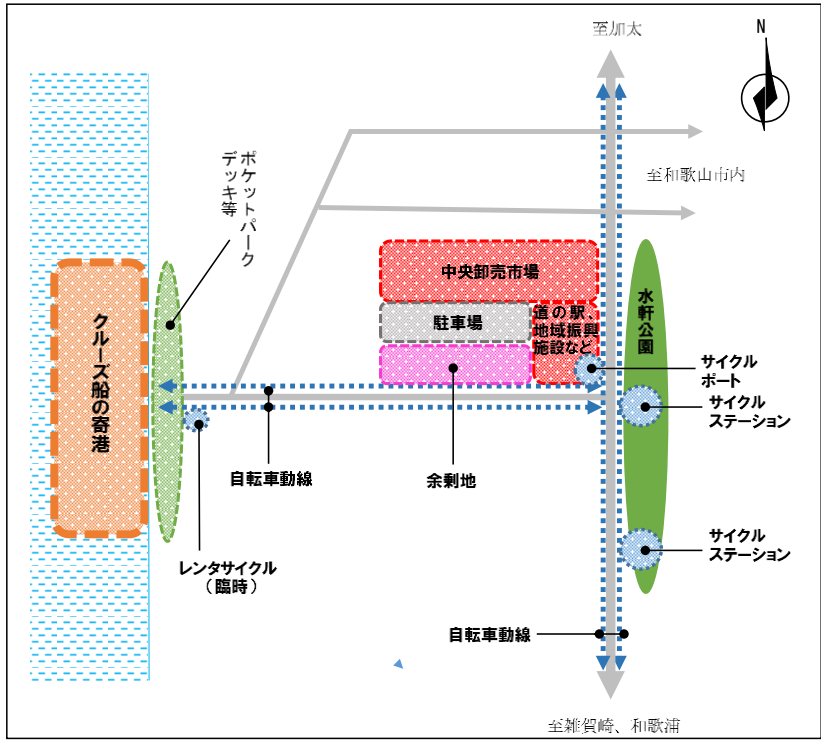
- ・ 埠頭、中央卸売市場再整備に伴う道の駅整備と水軒公園整備が一体となって、「港のにぎわい・ホスピタリティ」機能の強化を図る。
- ・ クルーズ寄港時は、臨時レンタサイクルなどの設置による港周辺の回遊性向上を図るとともに、各種特産品物販等により港での滞在を促す。



クルーズ受入れ環境向上策（ゾーニングと人流・車両動線）

③ サイクリングロード、道の駅、中央卸売市場再整備の機能配置の検討

- 中央卸売市場再整備、道の駅整備等と一体となった憩い・にぎわい空間の整備を図る。
- 水軒公園、サイクルステーション、道の駅、地域振興施設等の多機能の連携強化によるサイクル拠点としての整備を検討（車で来たサイクリストの拠点としてパーク&サイクルライド駐車場の整備 等）



サイクリングロード、中央卸売市場、道の駅周辺の機能配置図

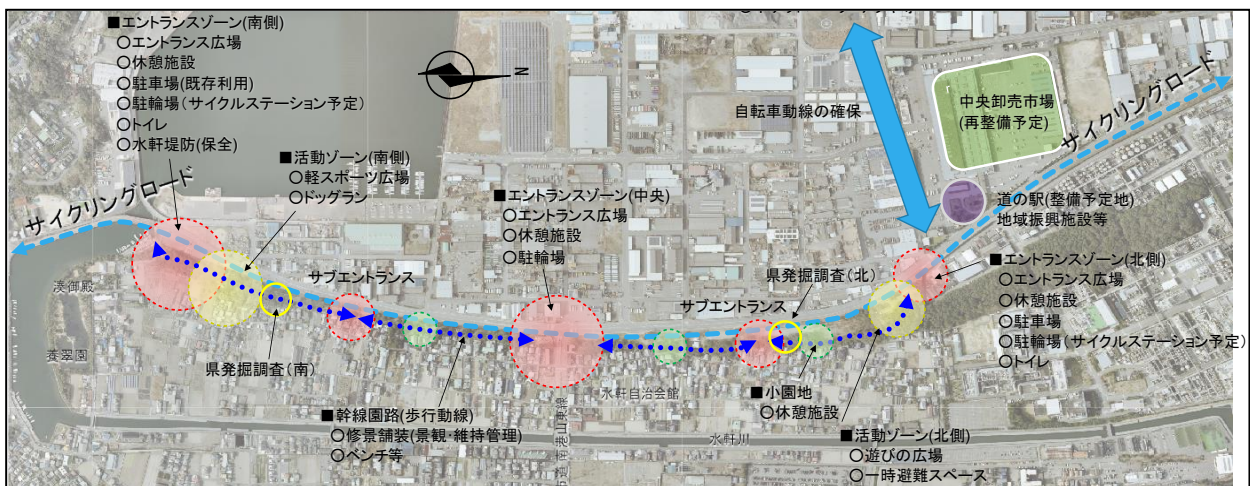
④ 水軒公園における機能配置の検討

地域住民の憩いの場や良好な住環境の創出、文化財（水軒堤防）を活用した魅力ある施設づくり、クルーズビジョンやサイクリングロードと連携したネットワークの形成を目指す。

【エントランスゾーン】：計画地両端部及び中央部に水軒公園のメインエントランスとなるエントランスゾーンを配置する。その他、必要に応じてサブエントランスを配置。

【活動ゾーン】：計画地両端のエントランスゾーンと一体に、多様な利活用が生じる活動ゾーンを配置。

【小園地】：幹線園路沿いには、散策時の休憩や眺望等を考慮した小園地を配置。



サイクリングロード、中央卸売市場、道の駅周辺の機能配置図

Ⅲ 水軒公園の整備計画

【園路】

- 水軒公園内の移動（散策、ジョギング等）や広域的な歩行系ネットワークの形成（クルーズ船発着場や道の駅と養翠園を結ぶ遊歩道等）を考慮し、計画地全線にわたる幹線園路を整備する。
- 幹線園路沿いには適宜ベンチ等を配置し、快適な散策が可能となる遊歩道空間の創出を図る。



【エントランス広場】

- 主要エントランスには、利用者のたまりの空間となる小広場、休憩施設（ベンチ、四阿等）、駐輪スペースを有するエントランス広場の整備を行う。
- 公園利用者だけでなく、サイクリングロード利用者の休憩場所（サイクルステーション）としても利用されることを考慮する。



【史跡の利活用】

- 水軒堤防の保全を前提とした現況地形を活かした公園整備や解説サインの整備を行う。
- 復元展示（既存）を活かした周辺整備を行う。



水軒公園の基本計画図

2) 公園整備・管理に関する PPP 導入可能性の検討

①民間活力導入の基本的な考え方の整理

従来の公園運営管理は公設公営（部分的な管理委託を含む）が一般的であったが、昨今では管理運営を民間に委託（管理運営委託（指定管理者制度を含む）、DBO など）する公設民営方式の例が見られる。公園の日常管理（清掃、除草、施設の日常点検等）等を対象とし、地域住民を主体とした活動団体に協力頂く制度として「公園愛護制度」として必要最小限の助成を行う場合も多く、和歌山市では、「都市公園等美化協力会」として、公園の美化と適正利用を目的とした地域団体の結成を奨励している。

②公園運営管理に係る PPP/PFI の他事例調査

1) 雪国植物園（長岡市）

維持管理、体験活動、自主事業を公益社団法人が運営。労力を出せる人は労力を、知恵を出せる人は知恵を、お金を出せる人はお金（会費等）をとそれぞれ自由に選択して参加する方式をとっている。

2) 泉佐野丘陵緑地（大阪府）

園内の動植物の調査、広場や公園の園路や散策道の整備、園内の棚田跡を活用した農活動、竹炭づくりなど工作活動、公園PRイベント、専門家指導による勉強会等、多様な活動を地元企業グループ傘下の公益社団法人が運営。企業の活動が社会貢献につながる仕組みをつくり、府民主体のプログラム実施により地域活性化を図っている。

3) 富岩運河環水公園（富山県）

全国初の都市公園でのカフェ出店、公園利用者に向けた飲食物の販売。集客力の高いカフェによって多くの人を呼び込むことに成功。施設の整備段階から民間事業者に任せたことで、公園の雰囲気と合致した外観や照明を実現。

③水軒公園の整備・管理に関する PPP 導入可能性の検討

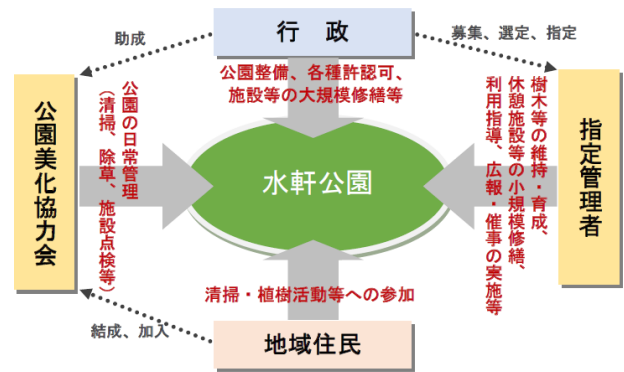
○水軒公園内には和歌山県の指定文化財に指定されている南北約 1.0km に及ぶ江戸時代の堤防跡『水軒堤防』が埋まっている状況となっている。和歌山県教育委員会が、平成 18 年度から平成 20 年度の 3 ヶ年にかけて実施した県指定史跡水軒堤防確認調査（平成 21 年 3 月）においては、表面から 2~3m の深度、標高 4m 前後で堤防の天端を検出している。

○上記を踏まえ、公園整備及び公園整備にあたっては、文化財としての専門的見地による保存活用計画を策定のうえ整備を進めることが求められる。本調査で開催した地域とのワーキングでの議論を踏まえ、本史跡は国指定文化財指定を目指し、現存植生の保全及び史跡（水軒堤防）の保全を目的とし、極力現況地形を活かした計画とすることとなった。

○その場合、本公園敷地内では史跡保護・文化財保護の観点から PPP/PFI で期待される民間収益施設の整備が困難となること、遺構本体を含めた施設の適切な維持管理が求められる。

○水軒公園の年間維持管理費 17,000 千円/年程度に対し史跡公開等に伴う収益は 10,500 千円程度と予測され、都市公園としての存在価値（良好な都市環境の提供、都市の安全性向上、市民の活動・憩いの場の形成、豊かな地域づくり・地域の活性化）としての事業効果が見込まれる一方、収益面での効果は限定的と判断できる。そのため、設計・建設段階から民間資金とノウハウを活用する PFI 方式の導入は困難であると判断する。

- 公園の管理（清掃、除草、施設点検等）
 に関しては、和歌山市で奨励している地域住民による都市公園美化協力会の組織づくりを行い、管理することにより地域住民が主体となった公園美化活動並びに水軒公園に対する愛護心の醸成を図ることとする。



水軒公園における維持管理方法（例）

3) 波及効果の把握と分析

- クルーズの寄港増加にともない、旅客や乗組員（クルー）の観光消費の増加が期待できる。寄港地における経済効果は観光消費による直接効果のみで来訪1人当たり1万円～3万円と試算され、この直接効果に加え、他産業への生産の誘発や、雇用者所得の増加、消費支出の増加等の経済波及効果が期待できる。
- 港湾道路沿いに位置する水軒公園の整備により、各種レクリエーション利用や上質な沿道景観の創出等、クルーズによる来訪者に対する本地域の魅力向上が図られる。また、和歌山本港、中央卸売市場再整備に伴う道の駅と本地域の観光資源である紀州徳川家所縁の大名庭園「養翠園」を結ぶ快適な歩行空間が創出されることとなり、クルーズ利用者の地域利用を促進する歩行系ネットワークが形成される。
- 水軒公園にサイクリングステーションを設けることにより、サイクリングロード利用者の利便性向上、また、水軒公園の広域的な利用促進が期待される。
- 水軒公園整備に係る概算事業費は約12億円であり、フロー効果として事業費の投入による地域経済効果が期待できるほか、都市公園としての存在価値（良好な都市環境の提供、都市の安全性向上、市民の活動・意欲の場の形成、豊かな地域づくり・地域の活性化）としての事業効果が見込まれる。

3. 基盤整備の見込み・方向性

大型クルーズ船受け入れを目指した防舷材及び係船柱等の和歌山県によるハード整備に合わせ、クルーズ船誘致活動と受け入れ体制の整備を平成28年度以降に図る予定である。

水軒公園に関しては史跡の国指定文化財への登録を進め、文化財としての専門的見地による保存活用計画と合わせ、平成31年度までに社会資本整備総合交付金の都市公園・緑地等事業で事業化を目指す。

4. 今後の課題

1. 継続的なポートセールスによる寄港実績の増加
2. 県及び関連市町と協働によるクルーズ受入協議会の運営及び官民連携による受入れ体制整備
3. 中央卸売市場周辺整備（道の駅、地域振興施設等）と連携したにぎわい空間づくりを進める。